

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 高橋 賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
(渋川福祉センター内)
TEL 0561-51-2878



2024/05/10

のコンクリートの
製。
ものとは
承応3年
(1624年)
玉川上水開
削時に鑿置
されたか始
まりで、当初
の堰は木製
だったため洪
水で流され反
りしてしまっ

東京都羽村市にある多摩川河口から約9kmに位置する堰が羽村取水堰（上流から見ると）にある全長380mの投渡堰（なげわたし）と、右岸側の固定堰で構成される世界的にも珍しい堰です。現在の堰は明治44年改築（大正13年増築）

羽村取水堰 投渡堰と固定堰の 間には投渡し場 が現存！！



2024/05/10



2024/05/10

現在は投渡堰と固定堰が多摩川の水を堰き止め、第一水門で取水し、30m離れた第二水門で水量を調節（間にある小吐水門から余分な水、土砂を多摩川に戻しています）。さらに500m下流の第三水門から地下道水管で、村山貯水池（多摩湖、東大和市）、山口貯水池（狭山湖、埼玉県所沢市・入間市）に運ばれ、東村山浄水場（東村山市）などで浄水されます。投渡堰と固定堰にある石は、かつて多摩川で木材の伐流しが行われていた時代の伐通し場の跡です。現存する投渡し場は、享保6年（1721年）に設置。

明治時代には、矢張り杖にきぼ文を徴収し堰の維持管理に充当していました。現在、魚道が固定堰側にも築かれていますが、投渡し場も保存するため。



2024/05/10



2024/05/10